

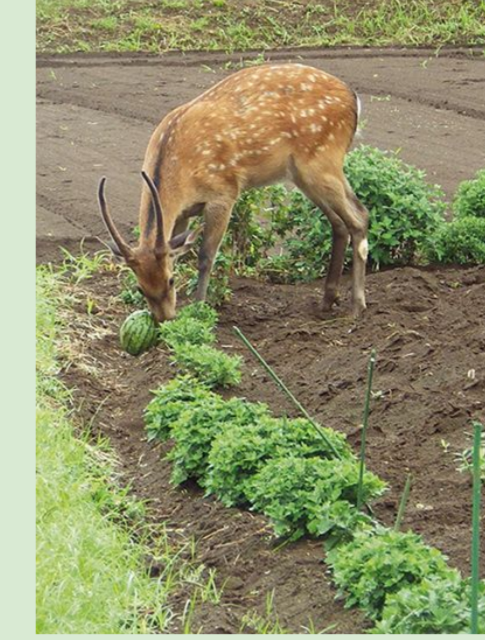


消しカスによる鹿への忌避効果

兵庫県立篠山鳳鳴高等学校 亀山珠希 木村友星 細山桃花

研究の動機

家庭や学校などの私たちの身近なところにあるごみを利用して、農家などを苦しめている害獣への対策ができないかと考えたから。



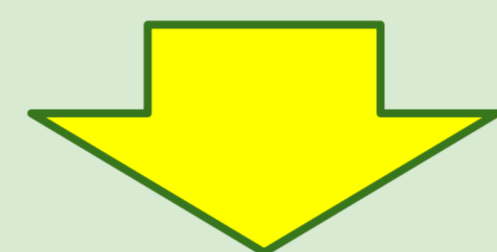
現状

平成30年の丹波篠山市の害獣の被害金額・・・鹿は約515万円と多い。
⇒対象を鹿に決定

鹿は人間の数千倍も嗅覚に優れており、特に嫌いなにおいに敏感。
(鹿の嫌いなにおい: シナモン、ハーブなどの香りの強いもの)
⇒**刺激臭**も嫌いと予測



私たち学生にとって消しカスは一番身近なごみだと言える。
消しゴムの主成分である塩化ビニールを燃やすと、**刺激臭**(塩化水素)が出る。

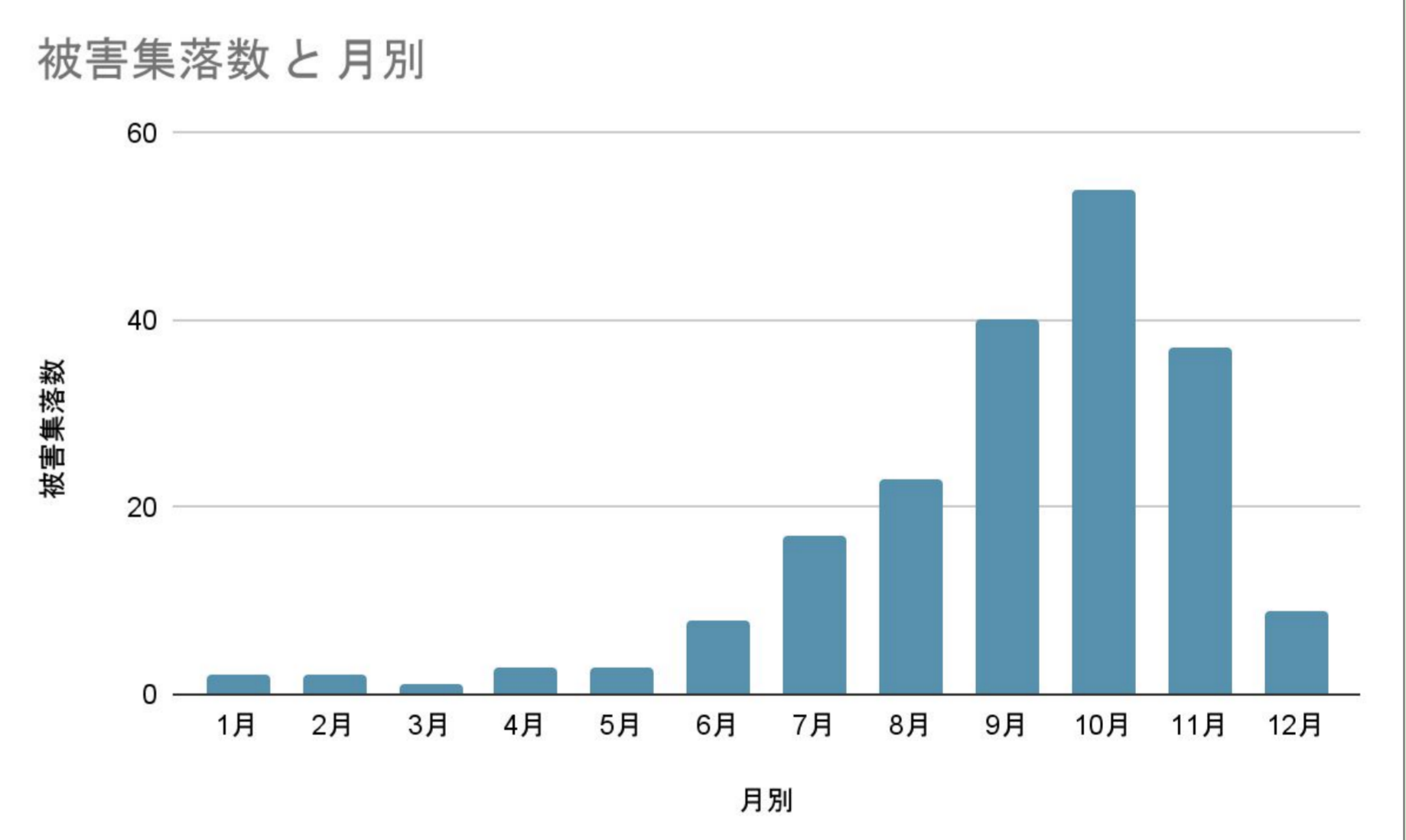


消しカスによる鹿への忌避効果が認められるのではないか

問い	動機	方法	予想される結果
消しカスは鹿に対して忌避効果を認められるようにできるのか？	消しカスは学生である私たちには身近なもの。それを、獣害対策に使えないかと考えたから。	鹿のよく出る場所などで、様々な種類の消しカスを様々な方法で刺激臭を発生させ、鹿への忌避効果の有無を調べる実験を行う。	消しカスの種類は結果に関係なく、方法の違いによって異なる反応を起こすが忌避効果は認められると思われる。

今後の展望

実験を行う。実験内容・方法は上記の通り。
時期は右のグラフより被害の特に多い8～11月の間。
実験の少し前から消しカスの回収を始める。
実験が終わり次第、結果をまとめる。
忌避効果が認められた場合、実用化できるようにしていきたい。



参考文献

<https://www.nakajima-kikai.com> 中島機械～鹿の特徴～

<https://www.pwmi.jp> プラスチックのはてな

<https://www.city.sasayama.hyogo.jp> 丹波篠山市ホームページ

http://www.wmi-hyogo.jp/publication/pdf/mono02/chapter_4.pdf 兵庫県農政環境部